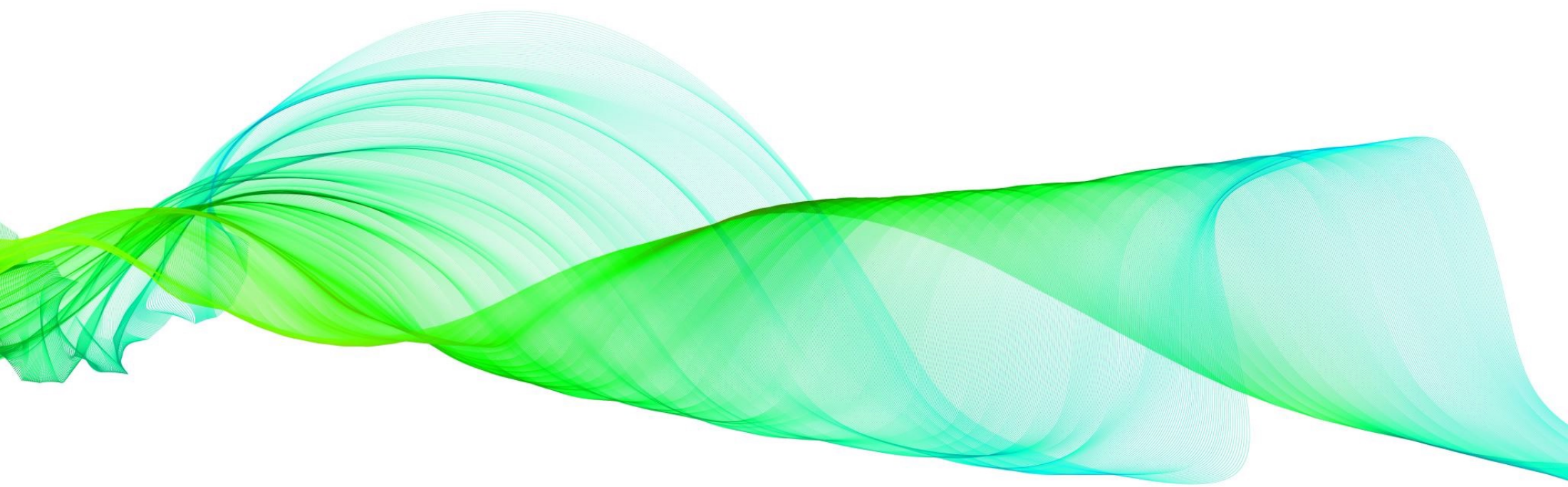




ジレンマから見る 児童心理司の特質

東京大学教育学部教育心理学コース3年 蒲池海斗

目次

研究の目的・方法（p.3-6）

- 目的/RQ
- 方法/インタビューの基本情報

結果・考察（p.7-13）

- ダイアグラム
- 見出されたジレンマ

総合考察（p.14-18）

研究の目的・RQ

- 動機・背景

- ・ 児童心理司の業務の実態はあまり知られていない
- ・ 虐待を扱うことや世間のマイナスイメージで精神的負担が大きいのではないか？

- RQ：「児童心理司が抱えるジレンマについて、児童心理司に特有な部分はあるか」

- ・ 仕事の本質理解や業務上の問題の解決方法の検討に重要？

方法

- 2022年6月-7月に，zoom上で60分×2回のインタビューを実施
 - ・ 1回目ではガイド作成，大まかな枠組みは事前共有
 - ・ 2回目では1回目の内容をもとにガイド作成
- ダイアグラムの作成
 - ・ 逐語録に基づいて見出しづけを実施
 - ・ 見出しづけを分類してカテゴリー表を作成，ダイアグラム化
 - ・ カテゴリー間の関係性からジレンマ抽出，再分析

インタビューに関する基本情報

- インタビュー協力者

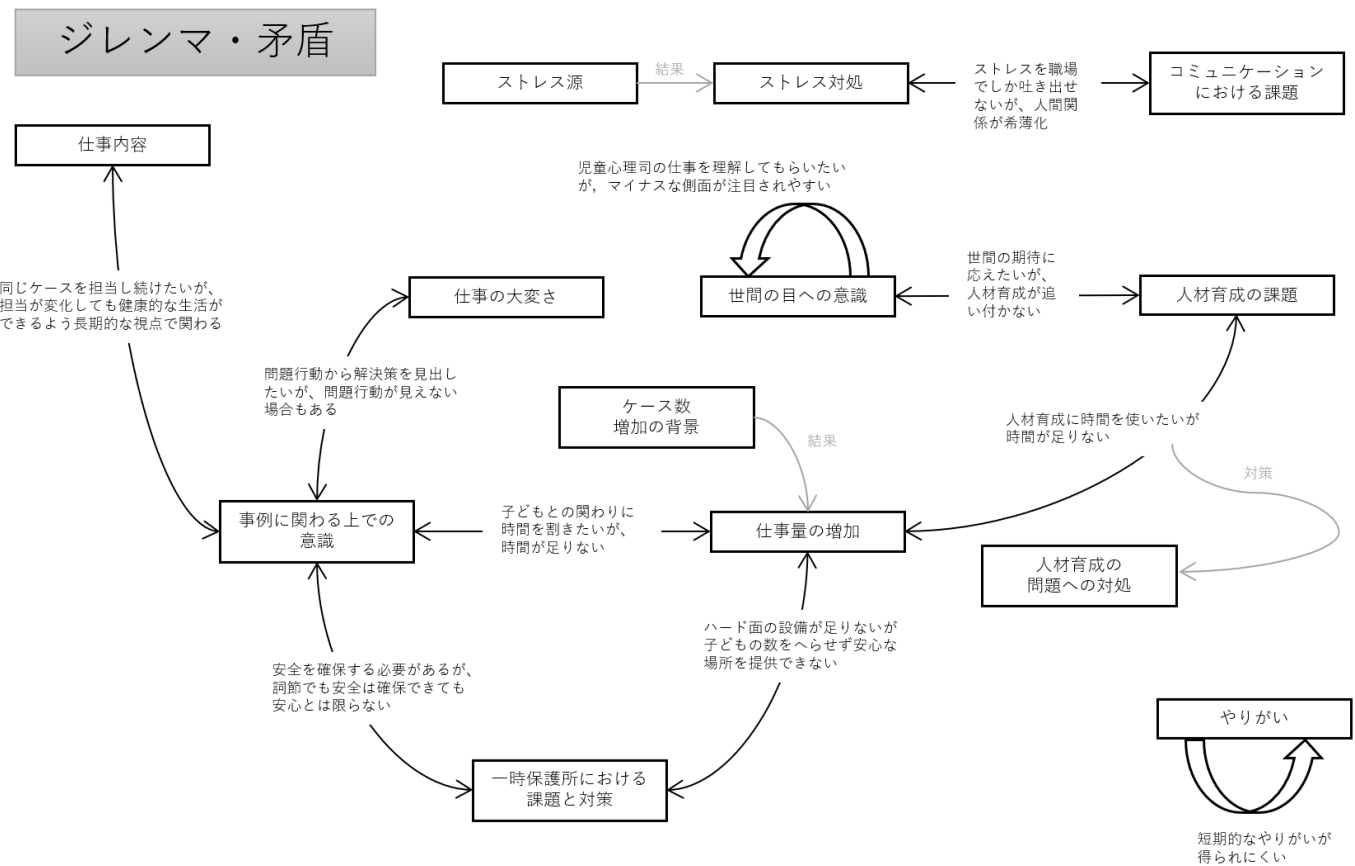
山崎さん(仮名), 川崎市内児童相談所

児童心理司として30年以上勤務

- 協力者との関係

インタビュアーが所属する団体の会長を通して川崎市市議会議員に連絡をとり，市議会議員の方から山崎さんを紹介していただいた。

結果・考察： ダイアグラム



見出されたジレンマ

①ストレスを職場でしか吐き出せないが人間関係が希薄化

「以前は・・・激務の中にも・・・配慮が、職員も少ないが故にできていた気がするんです、ただ職員が増えてくると・・・分業化、マニュアル化の方向に進んでいって・・・自分のことで精一杯で・・・関わりが持ててないなって」

→ストレス対処と人間関係

②ハード面が足りず、施設に入っている子どもの数も減らせないため 安心な場所が提供できない、子どもに頑張ってもらうしかない

「環境ですけど面接室が足りない」

「面接だとか外出だとか・・・ガス抜きをして、なんとか子どもに頑張ってもらって」

→設備の問題

見出されたジレンマ

③安心を確保する必要があるが、施設での安全は「安心」ではない

「お子さんが面白いことを言っていて・・・『保護されて確かにここは安全ではあるけれども安心ではない』・・・」

→「安心」まで提供できない現状

④同じケースを担当し続けたいが、担当が変化しても健康的な生活ができるよう長期的な視点で関わりをもつ必要がある

「支援者って終わりが来ますよね・・・自分だけでなんとかしようというよりは他の資源をどう組み合わせて使っていくか」

→複数人で長期的

見出されたジレンマ

⑤問題行動から解決策を見出したいが、

問題行動が見えない場合もあり、大変

「問題行動であってもこうやって反応してくれる子は、まあなんか取っ掛かりがあるんですね・・・一番大変なのは・・・何もこう表出しないというか」

→援助の手がかり

⑥子どもとの関わりに時間を割きたいが時間が足りない

「心理司が2倍になったら持ちケース半分になるか・・・半減するかっていうとまあそういうものでもないんですね・・・手が回ってなかったのがこう少し回り出すようになると、やっぱり面接の件数とかも増えますし、出張の回数とかも増える」

→援助自体の時間不足

見出されたジレンマ

⑦人材育成・技術研鑽に時間を使いたいけど時間が足りない

「判断能力なんていうのは，すぐにこう身につくものじゃない」

「育成するにも（中略）一気に増やすのはやめてほしいなって」

→ 援助のための活動の時間不足

⑧世間の期待に応えたいけど人材育成が追いつかない

「メディアが言っていることは間違いではないんですけど（中略）育成に時間がかかる

（中略）そこの狭間で物凄く，まあ苦しい」

→ 世間と実情の乖離

見出されたジレンマ

⑨やりがいと長い目で短期的なものが得られにくい

「やりがいと言いますか、かなり長い目でこう時間差ではある」

「日々の業務の中で・・・今日の面接よかったなとかっていうのはあんまりない」

→やりがいの得にくさ

⑩仕事を理解してもらいたいがマイナスな側面が注目されやすい

「ひどい親から子供を引き離し・・・施設に入れるってというような側面ばかりク

ローズアップされてますけれども・・・家族再統合ですかね？家庭復帰も含めた支

援ってというのが分離と同時に始まるってというような使命なので」

→良い側面の周知の難しさ

ジレンマ： まとめ

- ① ストレス対処と人間関係
- ② 設備の問題
- ③ 「安心」まで提供できない現状
- ④ 複数人で長期的
- ⑤ 援助の手がかり
- ⑥ 援助自体の時間不足
- ⑦ 援助のための活動の時間不足
- ⑧ 世間と実情の乖離
- ⑨ やりがいの得にくさ
- ⑩ 良い面の周知の難しさ

総合考察

- 児童心理司の特質は？
→ 職種の側面の重なり合いに存在！
 - ・ 対人援助職全体（今回は省略）
 - ・ 心理職としての側面
 - ・ 虐待面を担う職種としての側面
 - ・ 児童に接する職種としての側面
- 支援の方策

ジレンマ：
まとめ（再掲）

- ① ストレス対処と人間関係
- ② 設備の問題
- ③ 「安心」まで提供できない現状
- ④ 複数人で長期的
- ⑤ 援助の手がかり
- ⑥ 援助自体の時間不足
- ⑦ 援助のための活動の時間不足
- ⑧ 世間と実情の乖離
- ⑨ やりがいの得にくさ
- ⑩ 良い面の周知の難しさ

心理職としての側面

- ①支援対象者との結びつきが強く、
短期的な変化が生じにくい
 - ・担当者との信頼関係が支援の成功に
大きな影響を与える
 - ・心理面の回復は長期的
- ②心理職として職場のストレス対処の中心を
担いやすい
 - ・人間関係が希薄化した環境の中でも解決策を
学んでいる心理職が鍵となる

ジレンマ： まとめ（再掲）

- ①ストレス対処と人間関係
- ②設備の問題
- ③「安心」まで提供できない現状
- ④複数人で長期的
- ⑤援助の手がかり
- ⑥援助自体の時間不足
- ⑦援助のための活動の時間不足
- ⑧世間と実情の乖離
- ⑨やりがいの得にくさ
- ⑩良い面の周知の難しさ

虐待を担う職種としての側面

① マイナスなイメージを持たれやすい

- ・ 虐待を防げなかったときの世間からのマイナスイメージがより強くなる

② 問題解決のためには親子両方へ能動的に

関わって安心を提供する要請が強い

- ・ 虐待をした側の親にも働きかける必要がある

ジレンマ： まとめ（再掲）

- ① ストレス対処と人間関係
- ② 設備の問題
- ③ 「安心」まで提供できない現状
- ④ 複数人で長期的
- ⑤ 援助の手がかり
- ⑥ 援助自体の時間不足
- ⑦ 援助のための活動の時間不足
- ⑧ 世間と実情の乖離
- ⑨ やりがいの得にくさ
- ⑩ 良い面の周知の難しさ

児童に接する職種 としての側面

- 児童は自分から援助要請をすることが難しいため、積極的に安心を提供する要請が強い
 - ・ 自分から機関に援助を求められない場合
- 能動的な関わりへ

ジレンマ： まとめ（再掲）

- ①ストレス対処と人間関係
- ②設備の問題
- ③「安心」まで提供できない現状
- ④複数人で長期的
- ⑤援助の手がかり
- ⑥援助自体の時間不足
- ⑦援助のための活動の時間不足
- ⑧世間と実情の乖離
- ⑨やりがいの得にくさ
- ⑩良い面の周知の難しさ

支援への方策

- ただ人を増やすのではなく，人材育成にも配慮した質の高い補充を
- 職員のメンタルケア対策の充実
- 児童相談所全体としての活動内容の広報

ジレンマ： まとめ（再掲）

- ①ストレス対処と人間関係
- ②設備の問題
- ③「安心」まで提供できない現状
- ④複数人で長期的
- ⑤援助の手がかり
- ⑥援助自体の時間不足
- ⑦援助のための活動の時間不足
- ⑧世間と実情の乖離
- ⑨やりがいの得にくさ
- ⑩良い面の周知の難しさ

ご清聴ありがとうございました！